第17回 国内観光活性化フォーラムｉｎやまがた

全国旅行業協会（ANTA）

17日に山形市「やまぎん県民ホール」で開催

全国旅行業協会（ANTA、会長＝二階俊博衆院議員）は17日、国内旅行の需要喚起と観光振興の契機とするイベント「第17回国内観光活性化フォーラムｉｎやまがた」を山形市の「やまぎん県民ホール」で開催する。全国のANTA会員の旅行会社や都道府県観光関係担当者など約千人が参加する予定。

大会スローガンは「んまい山形さ きてけろ、もっけだの。」。美しい山形は、松尾芭蕉も愛し、山寺、最上川、出羽三山などで名句を残した。さくらんぼ、だだちゃ豆、芋煮、寒鱈汁、米、山菜、キノコ、牛肉、豚肉、地酒・ワインなど食も豊か。うまいものがたくさんある山形の魅力を、集まった全国のANTA会員に知ってもらう。

共催は、株式会社全旅。後援は、国土交通省、観光庁、山形県、山形県各市町村、日本観光振興協会、日本旅行業協会、日本旅館協会。全国のANTA会員や、都道府県観光関係担当者、運輸・宿泊関係者、マスコミ、一般来訪者が集まる予定。

基調講演で東北運輸局長の田中由紀氏が「ポストコロナ禍社会の観光振興」について語るほか、タレントのウド鈴木氏が「全国旅して わが故郷を想う」と題して話す。会場には山形県内の各市町村がブースを出展。前回の「第16回国内観光活性化フォーラムｉｎやまなし」で決定し、その後に実施された「山梨県送客キャンペーン」の優秀会員に対する表彰や、「学生がつくる山形県の着地型旅行プランコンテスト」の表彰も行われる。

前回の国内観光活性化フォーラムｉｎやまなし

学生がつくる山形県の着地型旅行プランコンテストは、若者の発想で斬新なアイデアに富んだ旅行商品の企画について、山形県在住の高校生以上で学校に在籍する学生を対象に募集。1月26日に開催された審査会（委員長＝山形コンベンションビューロー常務理事・青木哲志氏）で、応募12作品の中から入賞作品を決定した。

最優秀賞は山形県立小国高等学校2年、齋藤心花さんの企画「都会のZ世代が白い森おぐにの自然とふれあう夏」。SDGsを取り入れた観光振興を目指し、「供働」「新たな出会い」「自然」をポイントに、地域の人とコミュニケーションを取りながら小国町の魅力、自然、食文化を都会に住む人たちと一緒に体験するプランとなっている。

エクスカーションとして「日本唯一の居合神社で『サムライ体験』&銀山温泉散策」や「プロが選ぶ水上観光船第1位『最上川舟下り』体験」といった山形県内での体験を中心とした5コースを設定している。

大会次第（予定）

第17回 国内観光活性化フォーラム in やまがた

◇日　時　：　令和5年3月17日（金）　13:00 ～ 17:10
◇会　場　：　やまぎん県民ホール（山形市双葉町1-2-38）

時　間	分	内　容
10:00 ～		受付開始
13:00 ～ 13:15	15	オープニング アトラクション「花笠踊り」山形大学 花笠サークル 四面楚歌
13:15 ～ 13:20	5	舞台転換
13:20 ～ 13:55	35	**開 会 式**
	5	(1) 開会宣言　地元実行委員会　委員長　佐藤　順仁氏
	10	(2) 主催者挨拶　（一社）全国旅行業協会　会　長　二階　俊博氏
	5	(3) 来賓挨拶　観光庁長官　和田　浩一氏
	5	(4) 歓迎挨拶　山形県知事　吉村美栄子氏
	10	(5) 来賓・主催者紹介
13:55 ～ 14:00	5	舞台転換
14:00 ～ 14:20	20	**基調講演**　「ポストコロナ禍社会の観光振興」　東北運輸局長　田中　由紀氏
14:20 ～ 15:05	45	**記念講演**　「全国旅して わが故郷を想う」　ウド　鈴木氏
15:05 ～ 15:10	5	**大阪・関西万博 PR**　（公社）2025年日本国際博覧会協会　副事務総長　髙科　淳氏
15:10 ～ 16:10	60	**展示ブース見学**
16:10 ～ 16:45	35	**表彰式**　本部実行委員会　委員長　近藤　幸二氏
		(1)「山梨県送客キャンペーン」優秀会員表彰
		(2)「学生がつくる山形県の着地型旅行プランコンテスト」表彰・講評
16:45 ～ 16:50	5	**舞台転換**
16:50 ～ 16:55	5	山形県送客キャンペーンの提案　（一社）全国旅行業協会 副会長　駒井　輝男氏
16:55 ～ 17:05	10	**次回開催地引継式**
		東北地方支部長連絡会　議　長　大久　光昭氏
		東海地方支部長連絡会　議　長　藤田　雅也氏
17:05 ～ 17:10	5	**閉会挨拶**　（一社）全国旅行業協会 副会長　北　敏一氏

主催者あいさつ

観光立国への道 再び歩む第一歩

全国旅行業協会会長
二階 俊博

「第17回 国内観光活性化フォーラムｉｎやまがた」が、山形県の吉村美栄子知事、山形市の佐藤孝弘市長をはじめ、地元の皆さまの多大なるご協力とご熱意を賜り、精神文化と歴史、美食・美酒、温泉、美しく雄大な自然など、魅力あふれる観光資源に恵まれた山形の地において開催することを、心からうれしく思っております。また、全国各地でご活躍されるANTA会員の皆さま、並びに観光振興にご尽力されている地元自治体や観光関係の皆さまのご参集をいただきましたことに、厚く御礼を申し上げます。そして、本フォーラムの成功に向けて開催準備をされた地元実行委員会および関係各位のご労苦にも、深く感謝の意を表します。

国内観光活性化フォーラムは、2003年（平成15年）の第1回大会から数えて、おかげさまで17回目の開催となりました。当協会では、47支部組織の連携と、会員である全国各地の約5400社の旅行業者の結束の強化を図るとともに、地域に密着して旅行業を営む会員の特性を生かして、着地型旅行（地旅）を推進し、開催地の観光振興に貢献することを目的に、本フォーラムを開催しております。

3年以上の長きにわたり猛威をふるったコロナウイルスは、我が国の国民生活や社会経済に甚大な被害をもたらし、とりわけ旅行・観光産業は、苛烈を極める難局に立たされました。コロナ禍の暗く長かったトンネルを抜けて、失われた旅行者が全国各地に回帰し、全国旅行支援の実施も相まって、かつてのにぎわいを取り戻しつつある今、地方復活に資するため、業界の一大イベントである本フォーラムを、昨年5月開催の山梨フォーラムに引き続き、年度内に2回実施する運びとなりました。本フォーラムが観光立国への道を再び歩み始める重要な第一歩として、また、旅行・観光産業の復活を広く内外に発信する場として、絶好の機会となれば幸いに存じます。

観光とは、常に平和の上に成り立ち、人と人、人と地域・国をつなぐ平和産業であり、お互いに知恵を出し合い、力を合わせることが肝要です。全国5400社のANTA会員が一丸となり、これまで培ってきた長年の経験と英知を結集すれば、それは比類なき大きな力として結実し、いかなる困難をも乗り越え、旅行産業がさらなる躍進を遂げるものと信じております。われわれの総力を挙げて、共に奮起し前進してまいりましょう。

結びに、山形県の観光のますますの発展、旅行業・観光業のますますのご隆盛、本日ご参集の皆さまのご健勝とご繁栄を心より祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

地元実行委員会 委員長

山形県支部長 佐藤順仁氏に聞く

――国内観光活性化フォーラムが山形県で初めて開催される。

今回のテーマは「んまい山形さ きてけろ、もっけだの。」（山形にうまいものを食べに来て良かった）。ウィズコロナ時代の中、一部の個人旅行は再開するも、国内観光はまだまだ疲弊している。国内観光の回復を目指し、来訪する全国の観光事業者に山形県の魅力、そして元気を届けたい。

――山形県の旅の魅力は何か。

県内各地で若干違う方言と伝統文化の数々。山寺や出羽三山を筆頭に山岳信仰の場として栄えてきた。月山、羽黒山、湯殿山には今も文化が息づき県央部にそびえ立つ。この地は気象庁の観測所がないことから「隠れ積雪日本一」で夏スキーなどの活雪の先進地だ。東南部には「スノーモンスター樹氷」で有名な蔵王（温泉）がある。南の玄関口・米沢市では、米沢藩主の上杉家に伝来した、織田信長から上杉謙信に贈られた狩野永徳の作品「洛中洛外図屏風」が上杉米沢市博物館に所蔵されている。これは1995年に国宝に指定された。また、銀山、上山、天童、湯野浜温泉など源泉成分の違う110湯を超す温泉場がある。

農産品では赤いルビーと形容される「さくらんぼ」が特に有名だ。3Lを超す大玉の新品種のさくらんぼ「やまがた紅王」は今年から販売が始まる。米どころ山形が開発した食用米「つや姫」は特に評価が高い。

――大会プログラムの内容について。

北は北海道、南は沖縄まで、日本全国から約千人の観光事業者が集まる。山形に来たかいがあったと言ってもらえる大会を目指している。オープニングアトラクションとして華やかで笠回しが見事な「花笠おどり」と「酒田舞娘」で迎い入れ、懇親会では「やまがた舞子」で会場を盛り立てる。

会場には県内各市町村の魅力を紹介するブースが50近く設けられる。本大会を機会にこれまで触れることのなかった県内各地域の観光資源、着地型観光、特産品などをぜひ知ってもらいたい。

このほか、東北運輸局長の田中由紀氏による基調講演「ポストコロナ禍社会の観光振興」や、山形県出身のタレント、ウド鈴木氏による記念講演「全国旅してわが故郷を想う」を予定している。このほか「山梨県送客キャンペーン」の優秀会員の表彰、山形県送客キャンペーンの提案などが行われる。

――会員や関係者などへ歓迎のメッセージを。

3月13日からマスク着用が個人の判断になった。万全な感染症対策をとり、安全、安心な大会になることを願っている。

全国の観光事業者に山形県の魅力と元気を届けたい